**ハンドマイク街頭演説原稿例　任命拒否の理由は支離滅裂**

二〇二〇年十一月九日　日本共産党埼玉県委員会・作成

　ご近所のみなさん、こんにちは。日本共産党です。この場所をお借りして、日本共産党の政策をうったえさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　みなさん、先日、衆参両院の代表質問と予算委員会が行われ、日本共産党の志位委員長と小池書記局長が「任命拒否問題」を厳しく追及しました。この間の論戦で明らかになったのは、菅首相が「任命拒否の理由」として持ち出した「俯瞰的・総合的な活動を確保する観点から」などの説明が、ことごとく根拠のない支離滅裂なものだったということです。例えば、「多様性が大事だ」といいながら、なぜ私立大学の３人を拒否したのか、数を増やすべき女性研究者を拒否したのか、その大学から唯一選ばれた研究者をなぜ拒否したのか。菅首相はいずれも説明できませんでした。質問にかみ合わない答弁の繰り返しでは、到底納得できるものではありません。とりわけ、参院予算委員会で持ち出してきた「事前の調整が働かなかったから任命拒否した」という答弁は、任命以前の「選考・推薦」の段階で政府が介入すると公然と宣言するものであり、極めて重大です。高度な自主性が保障される日本学術会議の人事権へのまさに「露骨な政治介入」というべきものであり、絶対に許されるものではありません。日本共産党は、違法な任命拒否の撤回とともに、６人をそのまま任命するよう、引き続き強く求めていきます。次の総選挙では、国民の自由と権利を脅かす菅政権を何としても終わらせるため、野党共闘の力で政権交代を実現していきます。その要となる日本共産党の躍進へ、みなさまの大きなご支援をよろしくお願いします。

　さて、みなさん、新型コロナがふたたび感染拡大するなかで、年末から来年にかけて中小企業の倒産・廃業、それに伴う大量失業の危機が広がっています。消費の落ち込みよる地域経済疲弊も深刻です。日本共産党は予算委員会で、感染対策の強化とともに中小企業、フリーランスや自営業者への命綱となっている持続化給付金の継続を強く求めました。さらに、コロナ危機打開のため、企業から休業手当が支払われない労働者を支援する「休業支援給付金」の対象拡大や、文化芸術活動を継続するための「支援金」の支給を迅速におこなうよう求めました。日本共産党は、コロナ危機のなかで国民のいのちと暮らしをまもるために引き続き全力をつくします。

　みなさん、今回の予算委員会では、党派を超えて「選択的夫婦別姓」の実現をもとめる質問が相次ぎました。日本共産党の小池書記局長は、かつて自民党国会議員有志が党三役に選択的夫婦別姓の実現を申し入れた際、菅首相と上川法相が賛同者に名を連ねていた事実を指摘し、選択的夫婦別姓の早期実現を強く迫りました。菅首相は、「政治家としてそうしたことを申し上げてきたことには責任がある」と踏み込んで答弁しました。いまこそ選択的夫婦別姓の実現させていきましょう。だれもが自分らしく生きられるジェンダー平等社会の実現をめざし、日本共産党はみなさんと力をあわせて頑張ります。

　最後に、日本共産党が発行する「しんぶん赤旗」の購読をお願いしまして、この場所をお借りしてのうったえを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）